

令和元年度 第2回軽米町総合教育会議 議事録

1 日時 令和2年2月21日(金) 午後1時10分から

2 会場 軽米町役場 2階第1会議室

3 出席者

(構成員) 山本賢一 町長

菅波俊美 教育長

戸草内勝夫 教育長職務代理者

兼田寿 教育委員

関向玲子 教育委員

紫葉守 教育委員

(事務局) 堀米豊樹 教育委員会事務局総括次長

大清水一敬 同 生涯学習担当次長

工藤薫 同 教育総務担当次長

関向真介 同 指導主事

4 あいさつ〈町長〉

本日は「後期高校再編計画案」と、「復興教育について」協議いただく。

特に、高校再編計画については、県内市町村長で結成する「岩手の高校教育を考える市町村懇談会」で、提言書を県に提出しており、全県的に関心の高さが伺われる。

当町では、県立軽米高校への支援を行い、入学者の確保を目指し、「魅力ある軽米高校」を作るための取組を行っている。

5 協議事項

(1) 後期高校再編計画案について

(2) 復興教育(県指定:軽米小・軽米中)について

(3) 意見交換

(4) その他

6 協議内容

(1) 後期高校再編計画案について(教育長)

◆ 新たな県立高校学校再編計画(案)の概要について説明

〈町長〉 先ほども話したが、県には市町村長で要望を伝えてい

る。現在、軽米高校は2クラスだが、1クラスになると教職員数が減り生徒の選択肢を狭めることとなるため、2クラスを維持することが肝要である。

〈委員〉 軽米高校は定員80名で、入学者が40名台であるが、クラス減にはならないということは安心できるのか。

〈教育長〉 再編の基準は前期と同様であり、入学者が定数の半分を下回る年が2年続けば学級減となる。今後も入学者増に向けて、高校と協力して「魅力ある高校づくり」に町の支援とあわせて努力していきたい。

〈町長〉 中高一貫教育の実践をはじめ、軽米高校には魅力づくりに努めていただいている。

〈委員〉 学級減になれば、教職員が減ることは理解できる。今の状態は通常の職員数なのか。

〈教育長〉 現在は、中高一貫教育に伴う加配措置がなされていると伺っている。

〈町長〉 県北では、特に葛巻町が入学者増に力を入れているが、当町も、今の形で高校支援を進めていきたい。

〈教育長〉 地元中学校への軽米高校理解促進と共に、平成29年度からスタートした、新たな町外への通学支援は画期的な支援であったと考えている。

〈委員〉 地元の軽米中学からより多くの生徒が軽米高校に進学してくれると良いのだが。

〈町長〉 当町の最近の出生数は40名台前半であり、軽米中学の生徒数も減少していくものと思われる。学校の魅力づくりとともに、少子化対策を進めていきたい。

(2) 復興教育（県指定：軽米小・軽米中）について（指導主事）

- ・令和元年度「学校安全総合支援事業」（いわての復興教育〈内陸〉）事業の取組について説明

〈委員〉 当町で起きた、平成11年の大水害が忘れられていくのではないかと心配している。復興教育により子ども達に受け継がれていくことは大事なことと思う。継続してほしい。

〈町長〉 平成11年の大水害では、軽米町で起きた被害として甚

大であった。甚大である災害は、復興するまで何年もかかり、かなりのエネルギーが必要である。

〈委員〉 軽米では、水害が繰り返されている。2百数十年前も大水害があった。災害について忘れないこと、復興について学ぶことは大事である。

(3) 意見交換

特になし

(4) その他

特になし

○閉 会